

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用した活性化の取組事例

都市と漁村のふれあい構想「漁港と地域を考えて活性化を！」

千葉県鋸南町 町営第2種保田漁港の取組

町の特徴

鋸南町は房総半島の南西部に位置する人口約9,800人の町であり、前浜は東京湾口に面し、岩井袋・勝山・保田漁港を有すなど、豊かな漁場は中高級魚類に恵まれ、古くから沿岸漁業の盛んな保田では刺網・定置漁業が主に行われています。

また、保田漁業協同組合を中心に都市と漁村の交流に早くから取り組み、伊豆半島や大島へ行くまでのプレジャーボートの寄港地としての地位を確立し、海の駅として年間2000隻以上の利用があるまでになり、魚食普及食堂「ばんや」と共に都市漁村交流の先進地域として多くの視察を受け入れています。



現状と課題

当町の人口は昭和35年をピークに年々減少傾向にあり、「就労環境の改善」「高鮮度で良質な農産物、海産物の提供と就業者の所得向上」「観光への取り組みによる地域の活性化」を図ることや若年層の流失を防ぐための就業の場を確保することが急務となっています。

特に観光産業は、平成19年7月に高速道路が開通したことにより、利便性の向上が図られ、団体客が訪れる機会が多くなりましたが、本地区は首都圏から日帰り出来ることから滞在による経済的な波及が望めなくなってきている現状があり、いかに滞在者を増やすかが大きな課題です。

地元の意見

保田漁業協同組合では「ばんや」の利用客からニーズを把握したり、多くの視察を受け入れ、漁港間での意見交換などをしたりと積極的に都市との交流を行ってきました。

そのような状況の中で農山漁村活性化法が制定され、漁港という小さな枠に囚われず、漁港と地域の活性化という視点から計画を立て、行政と事業化を目指しています。今では、漁業協同組合の中に活性化チームを作り、運営方法や収支計画などを見極める作業や行政と連携して、さらなる活性化を計画しています。



漁協活性化チームの協議の様子

活性化の取組 目標：年間来訪者を約43万人 約50万人へ

当町の漁業は、漁獲高の減少や魚価の低迷などにより、販売手数料では組合経営が困難なことから、平成7年から漁協しか持ち得ない海や水産資源を活用して一次産業と三次産業を合わせた「海業」【魚食普及食堂「ばんや」】を取り組みました。

また、海洋レクリエーションの利用増加に伴い、水産業とその地域に対する理解と関心を深めるため、遊覧船の運航やプレジャーボート（ビジター）の受け入れを図る一方、日本水仙の里で知られる「江月」地区に桃やアジサイ、ツツジを植栽し、従来からの漁港という「点」から「面的」な視点で取り組みを実施しています。



交付金で整備した「第3ばんや」

事業とその効果

魚食普及食堂「ばんや」は、これまで水揚げでロットがまとまらなると販売できない水産物を調理して食べさせることで販売を可能とし、資源の有効活用と魚価に付加価値を付けることで価格の低下を抑え、漁業の安定経営に貢献しています。

今回の事業で利用者からニーズのあった食事の予約制を開始できるようになり、また、大型観光バスを受け入れることが可能となりました。

4月26日に「第3ばんや」がオープンしてから6月末までに受け入れたバスの台数は76台、人数は延べ4364人（5月の対前年比124%）となっています。

「第3ばんや」を利用した人たちからは「観光バスの利用でくるので、中々利用出来なかった。美味しく新鮮な魚が食べられて嬉しい。」や「これまで一時間位待たないと食べられなかったが予約出来ることでスムーズに食べられ、予定がたてやすくなった。」との声が聞かれました。



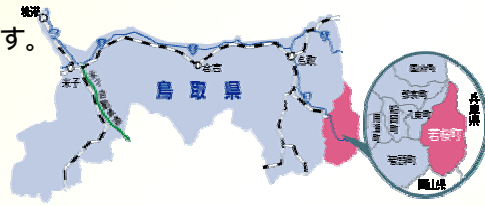
魚食普及食堂ばんやの人気メニュー

元気な町の再生「都市住民との交流による地域活性化を！」

鳥取県若桜町 若桜地区の取組

町の特徴

若桜町は、鳥取県の東南端に位置し、総面積は199 km²を有しています。総面積の内、約96%を山林などが占め、特に氷ノ山一帯は国立公園に指定され、ブナの自然林や高山植物など貴重な自然にも恵まれており、県東部を代表する氷ノ山スキー場も観光拠点の一つとなっています。また、町の中心地は若桜宿と呼ばれ明治時代の建物・蔵等が残されており、蔵通り・カリヤ通りに県内外から観光客が訪れています。



現状と課題

現在、町の人口はピーク時の約半分の4,300人に減少し、高齢化率も36%と全国平均を上回っている状況にあります。農林業にあっては、担い手の減少や高齢化による生産力の弱体化など取り巻く環境は厳しい状況が続いており、今後、農林業所得が少しでも向上するよう計画し、地域の活性化を図っていくかが、課題となっています。



蔵通り

活性化の取組

目標：都市住民との交流人口を3年間で418千人 544千人へ

町の玄関口である若桜鉄道と併設する形で、地元特産物を展示販売し、田舎料理体験ができる都市農山漁村総合交流施設「桜ん坊」を建設しました。なお、施設外観は町のイメージである蔵通り、カリヤ通りを採用しました。

計画策定にあたっては、全町民を対象とした事業説明会を実施し、事業についての合意形成を図りました。また、施設に愛着をもってもらうため、施設名について広く募集を募り、決定しました。



カリヤ通り

取組による効果

総合交流施設完成に伴い、地元の加工グループの皆さんが新商品の開発に向け連日奮闘された結果、県内外から約5千人のお客様がお訪れ、大変賑やかなオープンとなりました。1ヶ月経過した現在も順調にお客様が訪れており、町に活気が出てきています。

また、この施設を「町の駅」として位置づけ、都市住民との交流施設の拠点とし、交流人口の増加を図っていきます。

なお、観光ルートである蔵通り等の案内をするボランティアガイドも数名できるなど、若桜宿協議会・観光案内所の設置、加工グループ等も増え、平成19年度の観光客も約17万人と昨年より3万人増となり、町に活気が戻ってきています。



交流施設「桜ん坊」の外観



漬物



雑穀餅



鹿の薫製



田舎料理試食会



田舎料理



加工グループ

【お問い合わせ】農村振興局 整備部 農村整備官 農山漁村地域活性化支援室
担当：03-3501-0814 (ダイヤルイン)

<http://www.maff.go.jp/j/kasseika/index.html>

事務局からのお知らせ

皆様からの情報提供をお待ちしております！

「交流情報誌 季刊 新往来」は皆様からお寄せいただいた情報で構成されています。地域の自慢やイベントの案内など、全国に向けて発信したい情報がありましたら、ぜひご連絡下さい。

また、特集として「定住や二地域居住などの田舎暮らしを支援する取組事例」を募集していますので、みなさまからの情報をお待ちしております。

次号（第31号）の発行は、平成20年12月中旬を予定しておりますので、記入様式に必要事項をご記入の上、10月下旬までに各都道府県又は下記の編集・発行元までお送り下さい。記事に関連する写真・イラストがありましたら併せてお寄せ下さい。記入様式をご要望の場合は、お手数ですが下記の編集・発行元までご連絡下さい。

皆様からお寄せいただいた情報についてはできる限り掲載するよう努めておりますが、誌面スペースの関係上掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。

編集後記

昨年に引き続き、美しい農山漁村づくりの取り組みを全国的に普及させることを目的に、農村景観パンフレットの第3弾「農村景観～「農」の風景、先人から引き継いだからこそ～」を作成いたしました。

このパンフレットは、農村景観を活かした農村振興のあり方について解説するとともに、美しい農村景観という地域代々受け継がれた資源を活用し、活性化を図ろうとしている5つの地域の活動過程を、平成18年2月に結成された農村景観応援団との対話を交えて紹介しています。

皆さんの地域においても、このパンフレットをご活用のおうえ、地域が守るべき景観を見だし、それを次の世代に引き継ぐ取り組みを進めてみてはいかがでしょうか。農林水産省のHPで紹介していますので是非ご覧下さい。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/binosato/b_keikanpa/index.html



編集・発行

農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 農村政策班
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL:03-3502-6001(ダイヤルイン)
FAX:03-3501-9580



- 農林水産省のホームページでは、季刊「新往来」や都市と農山漁村の共生・対流など、様々な情報を掲載しております。ぜひご覧下さい。

農林水産省（<http://www.maff.go.jp>） 農村振興 都市と農山漁村の共生・対流（季刊 新往来）
（<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/sinourai/index.htm>）